

オーメン 18 (エイティーン) エンジェル (1997)

THE EIGHTEENTH ANGEL

メディア 映画

ジャンル ホラー

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 88分

初公開日 1997/12/06

公開情報 コムストック

【解説】

「エクソシスト」と並ぶオカルト映画のヒット作「オーメン」の脚本家デヴィッド・セルツァーが再び悪魔の復活を題材にしたホラー。邦題には「オーメン」と謳っているが本家とは関係は無い。

古代エトルリア文明の残した巨大な天文時計。だがそれは悪魔を降臨させるための呪術を秘めた恐るべき装置であった……。ボストンに住む大学の音楽教師スタントン（C・マクドナルド）は妻ノラと美しい娘ルーシー（R・L・クック）に恵まれ平和な家庭を築いていたが、ノラの突然の転落死によってその幸せは打ち碎かれる。ローマからやって来たシメオン神父（M・シェル）がノラと最後に会った人物だったが、実はその神父こそ18人の天使を捧げる事で美しき姿をした悪魔を現代に呼び覚まそうと企む邪教集団のリーダーであった。天使とは美しい顔をした子供たちの事を指し、天文時計が数字を刻む度に幼い命が奪われていたのだ。そして、シメオンの狙いはルーシーを最後の生け贄とする事であった。写真家からイタリアでモデルをしないかという誘いがルーシーにあり、同時にスタントンにもローマの古い教会にあるオルガンの調査が依頼された。見えない罠に気づかないままイタリアの地に降り立つ父娘。やがて彼らは片田舎にある修道院近くの家連れてこられるが、スタントンはその修道院に住む神父がノラが最後に会った人物だと知り、彼らをとりまく奇妙な符号に邪な陰謀の存在を感じ始めていた。やがて、17人目の子供が殺され、教団の魔の手はルーシーに迫りつつあった……。

派手なSF Xや残忍なスプラッター描写に慣れた目にはいささか古風なオカルト作品だが、そのオーソドックスな造りは悪くない。ただし、悪魔降臨に向けての御膳立によく判らない部分があったり、存在理由のはっきりしない登場人物が多かったりと、シナリオが消化不良の感は否めない。エンタテインメントとしての見せ場に欠けるのもマイナスだろう。教団に狙われる少女ルーシーに扮したR・L・クックの小悪魔的な魅力は作品には大いに貢献している。

【クレジット】

監督	ウィリアム・ビンドレイ	William Bindley
製作	ダグラス・カーティス	Douglas Curtis
	ウィリアム・ハート	William Hart
製作総指揮	ジム・バーク	Jim Burke
	デヴィッド・セルツァー	David Seltzer
脚本	デヴィッド・セルツァー	David Seltzer
撮影	トーマス・E・アッカーマン	Thomas E. Ackerman
音楽	スター・パロディ	Starr Parodi
	ジェフ・エデン・フェア	Jeff Eden Fair
出演	レイチェル・リー・クック	Rachael Leigh Cook
	クリストファー・マクドナルド	Christopher McDonald
	マクシミリアン・シェル	Maximilian Schell
	ダーネル・オートリー	

ウェンディ・クルーソン

Wendy Crewson

スタンリー・トゥッチ

Stanley Tucci

コジモ・ファスコ

Cosimo Fusco